

第3回

SEAL (School for East Asia Leadership)

～分断を越えて平和へ 共同の未来と東アジアの平和～

現地事業視察報告

2017年2月17日(金)～21日(火)

済州島ケンジントリゾート西帰浦(ソギョポ)

趣旨

- 我々が直面している困難を乗り越えるために共同の未来を共に模索し、国籍にとらわれない「アジア人」としてのアイデンティティをもって行動できる人が、東アジア地域の平和構築を導いていくでしょう。地域に根を下ろし、地球的なビジョンを共有し、協力する「アジア人」の人材育成が東アジア次世代リーダーシッププログラムの目標です。

本ワークショップの主題

- “東アジアの共同の未来をどう見るか

それを実現するための宗教の役割はなんであるのか：

ジェジュから見るアジアの過去と未来”

2/17(午前・午後)
日本側参加者事前ワークショップ



1. 自己紹介;所属団体での取り組みや、本プログラムへの期待等を共有
2. SEALのこれまでの歩みの紹介
3. 「日本の5大 이슈について」の共有と順位付け
4. 5大 이슈の議論を受け、「望ましい東アジア」の未来に関するブレインストーミングなど
基本事項の確認と、今回のプログラムに臨むに当たっての準備が行われた。

2/17(夕方)

Peace-building Workshop+ 日韓参加者の自己紹介



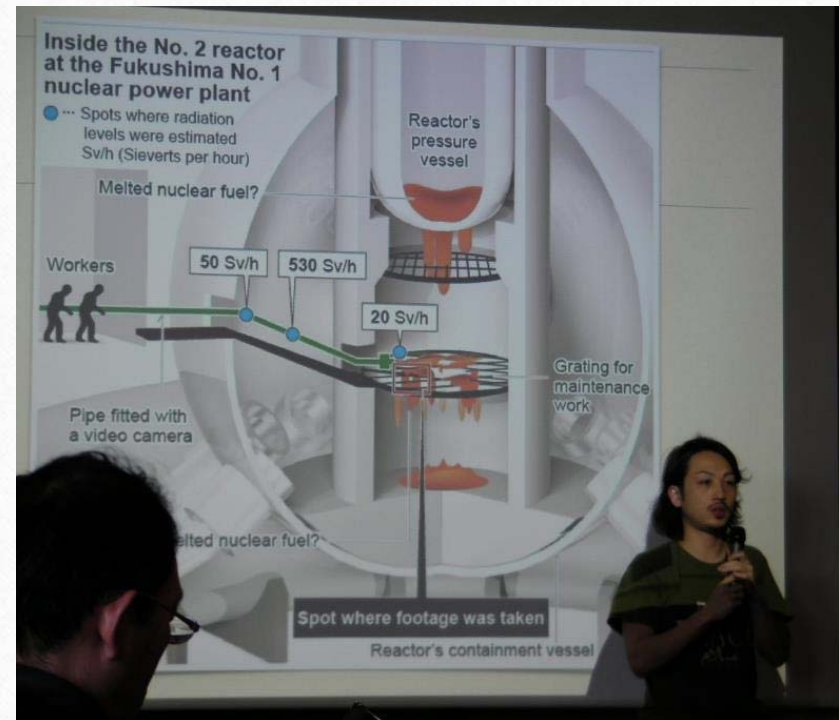
参加者が初めて顔を合わせ、緊張した面持ちの人もあったが、ファシリテーターの穏やかな口調と安心できる雰囲気の下、徐々に場が和み、互いのことを知り合うことで、平和に満ちたひと時となった。

2/18(午前①)
すべての生命を大切にする社会に向けて; 朴 猛洙(パク メンス)教授、円光大学校



朴教授のこれまでの歩みや研究、そして2002年から始まった「日韓の市民が一緒に行く、東学農民軍の跡を訪ねる旅」の成果を中心に報告された。
11年間にわたる草の根交流や、「歴史の事実=真実」と向き合う望ましい方法とは何かなど、多くの示唆に富んだ貴重な発表であった。

2/18(午前②)
沖縄と福島は今; 片岡 平和氏、早稲田 奉仕園



片岡氏からは学生時代から沖縄に関わって来た経験や、現在沖縄が抱えている問題や市民の行動、また東日本大震災による福島第一原子力発電所の放射能漏れの問題と影響等に関する報告があった。

2/18(夜)
宗教者としての反省と決意; 宇梶 憲市郎氏、芳澍女学院情報国際専門学校



第1回から本プログラムに参加してきた宇梶氏より、これまでSEALを通じて学んできたことの振り返りや深まり、そして学んだ事をどのように活かしてきたか、自身の宗教的背景にも触れた反省や今後の展望などが語られた。

2/18(夜)

宗教者としての反省と決意; 宇梶 憲市郎氏、芳澍女学院情報国際専門学校



宇梶氏の赤裸々な反省や体験談が心に響いたのか、自身が属する団体における問題点を反省する声や数年前に起きた社会的な大惨事に関する悲しみに声など、各人の想いを率直に吐露する場となった。

2/19^(朝)
瞑想ワークショップ; 朴 大聲(パク デソン)師、円仏教・ハンウルアン新聞編集長)



3日目の朝は、自身の教える生徒たちから大変評判という朴師による瞑想ワークショップから始まった。
「仏教では心と体が一つであると見る」とのことで、体の状態をバロメーターとして、自身の心の状態を知り、コントロールすることができるという方法論が紹介された。朴師の指導の下、参加者相互に瞑想体験を行い、さわやかなひと時を過ごした。

2/19(午後)
濟州平和博物館見学・江汀(カンジョン)村巡礼



・日本軍が駐屯していた地下要塞の跡地に建てられた博物館。解説員による丁寧な説明によって、過去の歴史をまた一つ学ぶこととなった。



・海軍基地建設計画によって、村民たちに分断が生まれてしまった江汀村。その村人たちの和解と共生をもたらすための取り組みを続ける地元の教会を訪問し、実際に人々に寄り添い続けてきた牧師の話しに耳を傾けた。



2/20(午前)
平和アクション&我々の約束; 廣瀬 稔也氏、東アジア環境情報発信所)

最後の共通プログラムとして、
廣瀬氏のファシリテーションにより、
宗教界全体、所属組織、
個人のレベルでの行動計画
の策定が行われた。



「他者への無関心」「宗教の壁」
「閉鎖性」「実践のない祈り」など
のカテゴリーに対し、各自が帰国
後に取り組む行動計画を持ち帰り、
来年の再会を誓った。

